

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)													
ES11A007		学校組織マネジメントの実践演習(Theory and Practice of School Organization and Management)					共通科目													
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員														
必修	2	1	大学院教育学研究科			氏名 福本昌之, 有定裕雅 E-mail mfukumoto (福本), arisada-hiromasa (有定) 内線 7978 (福本), 6130 (有定)														
授業の概要	学校組織に関する基本的な知識を習得するとともに, 学校における組織づくりに関する理解を深め, 課題を発見し, 具体的な対応を立案・検討する力を養う。																			
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1 学校組織に関する一般的な知識を習得する																				
目標2 組織論の知識を活用して, 学校現場の課題を発見することができる。																				
目標3 学校組織の特徴を理解する																				
目標4 学校における教育課題を学校組織の課題として捉え, 具体的な対応策を検討する																				
目標5 学校の状況に応じた組織づくりのあり方(組織開発の方法論)を理解する																				
目標6 学校現場の事例を題材として問題点を発見し具体的な対応策を立案する																				
目標7 課題発見・分析・解決のために協働する																				
目標8																				
目標9																				
目標10																				
授業の内容																				
1 学校における組織づくりおよび組織マネジメントの意義																				
2 「組織」とは何か: バーナードの協働体系論を中心に																				
3 経営理論を知る(1): 科学的管理法・人間関係論・目標管理論																				
4 経営理論を知る(2): “社会的価値”を重視する経営																				
5 学校におけるリーダーシップ																				
6 組織と組織化~構造と過程への注目																				
7 学校組織文化の理解																				
8 知識創造論と学習する組織																				
9 学校の組織特性と組織マネジメントのあり方																				
10 学校組織開発の考え方																				
11 学校組織開発における学校評価の意義																				
12 ミドルアップダウンマネジメントの理論と実践																				
13 専門職としての学習共同体(PLC)づくりと校内研修																				
14 学校組織の一員(メンバーシップ)であることの省察																				
15 まとめ: 学校におけるリーダーのあり方と組織づくりの実践の省察																				
ラック ニティ グループ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	演習, グループ・ペアでの共同作業, 省察のためのコメントレポート, プレインストーミング, KJ法				工夫 その他														
時間外学修 の内容と時 間の目安	準備 学修	各回の授業の事前に配布される資料の熟読(2時間)。																		
	事後 学修	各回の授業内容の整理・省察を中心に, 授業後のまとめを各自で行う(1時間)。																		
教科書	授業中に指示する。																			
参考書	佐古秀一・曾余田浩史・武井敦史『学校づくりの組織論』学文社, 2011年。 浜田博文『学校を変える新しい力-教師のエンパワーメントとスクールリーダーシップ』小学館, 2012年 ピーター・センゲ, (枝廣淳子ほか訳)『学習する組織: システム思考で未来を創造する』英治出版, 2011年。																			
成績 評価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10								
	複数教員による多面的・総合的評価(受講態度, 課題に取組む姿勢, 討論への参加等)	70%																		
	最終レポート(本授業において学んだ事や今後解決すべき課題など)	30%																		
注意事項	本授業においては学校および教員集団のあり方を相対化して批判的に捉える力も求められる。よって, 個人の経験を基盤に置きつつも, それを絶対化することなく, 問い直す構えを重視すること。																			
備考	現職院生・学部卒院生の混合のグループにおいて, 経営のシミュレーションを考えるグループワークを行うなど, アクティブラーニングの手法を取り入れ, 現職院生・学部卒院生両者の学びあい・相互評価を基本とし, 実務家教員・研究者教員も参画したチームによる学習に取り組む。																			
リンク																				
	URL																			